

かずさの博物誌

イソシギ

～一年中見られる
小型のシギ～

文・写真／成田篤彦

2014.12.20

磯鳴いそなきの一足遅れ波を追ふ
浅岡葛生（大野雑草子編二〇〇三
海の歳時記 博友社）

ちなみに、俳句の磯鳴は秋に
飛来して、冬を日本の磯辺で過
ごす渡り鳥のシギ類などという。

この句のように、イソシギが
さざ波が打ち寄せる水際を、波
を避け、尻を盛んに振りながら、
えさを探して歩く。

その姿が、人気のない海辺の
静かさを一層引き立たせる。

シギの仲間は姿や形、大きさ
もさまざまで、スズメゝカラス
大までいる。その中ではイソシ
ギは小形で、日本で繁殖する数
少ないものの一種である。

国内では九州以北で繁殖する。
北方で繁殖するものは本州中部
以南に渡り越冬する。

繁殖地は、河原の発達した下
流域に多く、河原の片隅に巣を



▲河を飛ぶイソシギ＝2009年10月20日 木更津市



▲河辺を歩くイソシギ＝2009年10月20日 木更津市

つくる。巣は、砂地に浅い窪みを掘
り、枯れ草を敷いて皿形ひらたけに作る。
外のシギ類と同様に擬傷なげをする。
擬傷とは「敵に対する一種のはぐ
らかし。敵が巣に近づくと親鳥があ
たかも傷つき飛べないような目立つ
しぐさをし、敵を遠くへおびき出す」
ことである。
県内では春は三月下旬～五月中旬
頃、秋は七月下旬～十一月下旬観
察される。まれに越冬中のものも観
察されている。
上総では磯や堰、周辺の水田、公
園などでほぼ一年中見られるが、渡
り始めの七～八月に多い。
この時期、イソシギが河口近くの
護岸岩石などで羽を休める姿を見る

と安らいだ気持ちになる。
イソシギは上総地
方では繁殖期に当た
る四～七月にかけて、
あまり姿を見せない。
また、巣やヒナも観
察されていないので、
上総で繁殖している
かは分からない。
しかし、「どこかで
繁殖しているのでは？」
といつも注意して見
ているが、上総地方
では中流域の河原の
発達が少ないから、
繁殖はしていないの

かもしれない。
いずれにせよ、繁殖が分かれば、
巣に近づかずにとつとしておきた
いと思う。



▲河口のアシ原でえさを探すイソシギ＝2014年8月12日 木更津市



▲護岸岩石で休むイソシギ＝2008年10月9日 木更津市

memo

イソシギ

シギ目シギ科

全長二十センチ 千葉県指定最
重要保護生物（A）

水辺に生息し主に水生昆虫を食
べる。本州中部以南に冬でも見ら
れるが、同じイソシギが一年中い
るかどうかは疑わしい。

参考文献

千葉県レットデータブック
動物編2011年。